

奇跡の治療

神霊治療とは

神霊治療の事実

初めての体験談

フィリピンに神霊治療（PSYCHIC HEALING）を施すことのできるヒーラーがいると聞いて、その治療を行う個人宅を訪れたのは2001年5月のことであった。

私立大学の理学部数学科を卒業した私は、そのような非科学的とも言える治療を信じる訳はなかったが、信頼する方からのお誘いでもあったし、まんざら興味がなくはなかったので、治療を受けてみる気になったのである。

別にどこが悪いというわけでもない。今まで自分の身体にメスを入れるような手術も受けたこともない。そのとき治療を受ける必要性はまったくない状態と言えた。

しかし「人間の手が人体に入り、痛みを感じずに難病を治療する」などという超常現象を見てみたいという興味はなくはなかった。それにしても、そのお誘いくださった方への信頼がなかったら、治療を受けてみようとはまともに考えようとしなかったであろう。

古びたその家屋は、あまり安全とは言い難い平坦な土地にあった。玄関の戸を開けると、すでに数人の人がソファーに腰掛けており、順番を待っている様子であった。

「こんにちは。」

顔見知りの人はいなかったので、少々恐縮して挨拶をした。

この治療にお誘いくださった方はYさんというが、別室でヒーラーのお手伝いをしているらしく、そのとき姿は見えなかった。

「どうぞお掛けください。」

通された居間に控えていたうちの一人が私にソファーを勧めてくれた。

ふっくらと座り心地のよいそのソファーに腰掛けて、私は期待と不安に満ちた心を落ち着かせようと必死になっていた。

そこへ、この家の住人らしい老齢の女性が出てきて、

「これでもご覧になってください。」

と、フィリピンで行われた神霊治療のアルバム写真を手渡してくれた。

私は、勧められるままにページを広げた。

その写真を見た瞬間、「これを今から自分が受けるのだろうか？」と、驚きよりも恐怖感が私の心を支配した。

そこには、血だらけの身体を横たえて、腸のような長い臓器らしきものがヒーラーの手に高々と持ち上げられ、鼻から白い塊のようなものが取り出され、眼球がヒーラーの手でえ

ぐり出されているといった光景の数々が繰り広げられていた。どう見ても怪しい宗教の生贄の儀式である。

これで「痛みも感じない」「傷口も残らない」と言われても、信用しろという方が無理である。

「初めての人が治療を受ける直前に、何もこのような写真を見せなくてもよいのでは」と思ってもみたが、すでに私の不安と緊張度は一層高まってしまっていた。

そして、私はこの場所に治療を受けに来たことを少し後悔し始めていた。

そのとき、私の座っている後ろのドアが開き、中年の男性が姿を現した。

たった今治療が終わったらしい。

顔は少し火照ったように赤みを帯び、ちょっと高揚した気分の様子だった。

「いやあ、いつ来てもすごいね。」

どうやら、その男性は過去にも治療を受けたことがあるようで、そのヒーラーの治療を賞賛した。他の人とも知り合いらしく、気楽な口調で話し始めた。

「だいぶ楽になったよ。」

「さっきよりかなり顔色がよくなったね。」

「これでまた酒が呑めるな。」

「おいおい、あまり調子に乗るなよ。」

私は黙ってその会話を聞いていた。

その男性は、以前病院で心臓の大手術を受けたことがあるらしく、後で聞いた話によれば、かなり悪い状態らしい。今回は、シカゴからわざわざこの治療を受けに来たということだった。

その人が元気になっている様子を見て、私は少し安心した。

「次の方どうぞ。」

私の他に先に待っている中年の女性がいたので、当然その人が受けるものと心積もりをしていたところ、

「男性を先にします。」

と指示があり、私は心の準備をまだ整えていなかったが、急な対応を余儀なくされた。

しかし、自分の狼狽振りを外に見せるのも恥ずかしかったので、覚悟を決めて脱衣所のドアを開けた。

すると、フィリピン人とすぐにわかる浅黒い小柄な髭を生やした中年男性が通りかかり、ニコッと私に笑いかけた。腰の低い、愛想のよさそうな人だ。私は、「助手の人かな」と思い、

“Hi.”

と挨拶をした。

パンツ一枚になって、治療台の置いてある4畳間ほどの大きさの部屋に入ると、そこに Y さんがゴム手袋をはめて立っていた。タオルを洗ったり、ヒーラーの手を洗う洗面器の水を取り替えたりといったお手伝いをされているのだった。

「はい、どうぞ。」

と、Y さんは私にその治療台に仰向けに横たわるよう指示した。

例のアルバム写真を見せられた後に、「はい、どうぞ」と言われても困る。こちらは、恐怖と不安で緊張を抑えるので精一杯なのだ。

まさに「まな板の上の鯉」といった表現が適切だ。もう、どうすることもできない。

私は、覚悟をせざるを得なかった。

後ろの CD プレーヤーからは、癒し系の BGM が聞こえている。

その部屋には、前に治療を受けた人たちの生臭い血のにおいがかすかに残っていた。

タオルなどすべて用意が整ったころ、別室で休んでいたヒーラーがおもむろに部屋に入ってきた。正直私は、少し面食らった。

登場したヒーラーは、さっき私が助手だと思った人だったからだ。

「まさか、この人が？」

神霊治療のような超常現象を行うヒーラーと聞いて、私は、勝手にイエス・キリストのような人物を頭に描いていた。当てが外れて、私は更に狼狽した。

私の内心を尻目に、ヒーラーは洗面器の水で手を洗うといきなり私の腹に指を突っ込んだ。

「!!!」

痛みはない。しかし、確かに内臓に触れられている感覚がある。

くすぐったい感じだが、かなりの力で腹を押されているようだ。クチャクチャと音がするのが聞こえる。

私は、目を閉じて無事治療が終わることをひたすら祈っていた。

「ハンタイ」

と、ヒーラーが日本語で言った。

治療を受けに来るのは日系人が多いので、少し言葉を覚えたようだ。

指示どおりうつ伏せになると、背中から同様に指を入れて、背骨のあたりを中心に治療しているようだった。

10分くらいだっただろうか。治療自体は思ったほど長くはなかった。終わってから初めて拭われたタオルに血がついていることに気が付いた。

腹を見ても、傷跡は残っていない。

「これは一体どういうことだろうか。」

その治療の不思議さにあっけにとられていると、ヒーラーが Y さんに

“Stomach inflammation (胃炎).”

と言っているのが聞こえた。

確かに、そのとき胃が弱っていて、左上部に痛みが少しあったのであるが、私は何も言わなかったのにもかかわらず、ヒーラーにはそれがわかったのである。

「そうです。確かに胃の調子がよくありませんでした。よくわかりましたね。」

と言うと、Yさんはいかにも当然というように微笑んだ。

「背骨も曲がっていたようなので、指先で直されていましたよ。」

とも教えてくれた。

そういえば、人に指圧マッサージをしてもらったとき、背骨が曲がっていると指摘されたことがある。

「治療は終わりましたが、これから MAGNETIC（磁気療法）がありますから。」

と、Yさんは言って部屋から出て行った。

するとヒーラーがまた部屋に入ってきて、仰向けになるよう指示をした。

彼は私の横に立つと、目を閉じて私の胸のあたりに両手をかざした。目には見えないが、何か暖かいエネルギーのようなものを感じた。

人によっては、ものすごく身体が熱くなるという。

そして、チラッと見ると、彼は空気中からエネルギーをつまんで私の体内に入れる動作を一生懸命繰り返していた。目に見えないので、私にはエネルギーを入れてもらっているという感覚は味わえなかったが、先の神霊治療とこの MAGNETIC 治療で、かなり体調がよくなったような気がした。

治療が終わって、服を着て居間に戻ると、

「おっ、顔色がぜんぜん違うね。」

「まるでお風呂から上がったみたいだな。」

と言われた。

周りの人には直ぐに違いがわかるようだ。

私は依然キツネにつままれたようで、ただボーとしていたが、自分の身体がかなりリラックスしていることだけは実感できた。

治療を受ける前の恐怖感はない。しかし「どうしてこのような現象が起きるのか」という疑問が新たに心に生じていた。

「このような超常現象が現実にあるとすれば、他のあらゆる非科学的な現象も否定できなくなるではないか？」

論理的思考によって訓練されてきた私の頭は、感動も受け入れたが、困惑も隠せなかった。

また治療を受けに来ることを約束し、私はその家を出た。

帰りの車の中で、私はふとあることに気が付いた。

明らかに呼吸が長くなっているのである。

「呼吸をしなくてもよいのではないか」と思うくらい、息を吐いたままの状態でも長くいられるのだ。

どうしてそうなったかはわからないが、どうも神霊治療を受けた影響であることは確かであるようだ。現に、私はスキューバダイビングをするが、酸素の消費量がそのとき以来明らかに減ったことが証明されている。

この初めての神霊治療体験は、私には忘れられない思い出となった。

ヒーラーについて

そのヒーラーの名はネスター・ラボ（NESTOR LABO）という。

日本では有名なジュン・ラボの息子さんだ。ジュンが同じくヒーラーである日本人の元奥さんのユウコ・ラボを通じて、各界の有名人を治療してきたのに対し、ネスターの活動は極めて地味である。親子であるが、生活ぶりは全く違う。

ジュンは著名人の治療を通じてかなり金銭的にも裕福になったが、ネスターは治療費を受け取ってもすぐに周りの困っている人たちに分け与えてしまうため、極貧とも言える生活をしている。フィリピンのバギオに初めて訪れて驚いたのだが、彼の家はトタン板で囲まれ、台所は狭くて薄暗く、まさに掘っ立て小屋という描写がふさわしいところだった。最近ある方の寄付でようやく彼の診療所が建築され、ヒーリングを行うことができるようになったが、彼の生活状況はいまだ変わっていない。

これは、父のジュンと息子のネスターとで、どちらが良いとか悪いということではない。ただ同じヒーラーでありながら、2人の生き方が違うというだけだ。

ネスターがヒーラーとしての道を歩むことになったのは、彼が23歳のときであった。

オーストラリアに渡っていた彼は、当時出稼ぎ労働者のように、自動車工場の倉庫で働いていた。フィリピンの通貨ペソは、対外的に貨幣価値が低く、フィリピンでいくら働いても稼ぐことのできる金額はたかが知れている。それなら、外国で働いて稼いだほうが割が良いというわけだ。

彼の家系にはヒーラーが多い。祖母であるシルヴィーナ・ラボも、ヒーラーではあったが歯の治療の専門だった。その亡くなったシルヴィーナがある日夢に現れて、「私のヒーリングパワーを授けたい」とネスターに申し出たという。

しかし、若かったネスターはヒーラーになることを躊躇っていた。

自分の生活を省みず、他人のため体力の続く限り治療を行うことが使命とされるヒーラーの生活は決して楽ではない。また、ヒーラーになるとヒーラーとして生計を立てなければ

ならない。もし治療を止めてしまえば、その力は高次元から閉ざされ、生活に困ってしまうことになる。

ネスターはしばらく考えていたが、とにかく治療を行ってみることにした。

キリスト教信者である彼は、オーストラリア在住中も教会に通っていた。その教会では、他の人たちもいろいろな形のヒーリングを行っており、ネスターもその一環として初の神霊治療を披露した。

父親のジュンの治療を見ているので、パワー（神霊治療のエネルギーのことをヒーラーの間ではパワーと呼ぶ）さえ備われれば、彼が行うことはそれほど労を要しなかった。

そこで患者に喜ばれたため、ヒーラーになる使命を全うする決心をしたということだ。

それ以前にも、彼は将来的にヒーラーとならなければならないようなメッセージを受け取っていたようだ。そのオーストラリアの自動車工場で荷物を動かしていたところ、フォークリフトの先端部分が誤って彼の右手に刺さってしまったことがあった。そのとき彼は気を失い、病院に運ばれたが、レントゲン写真を撮っても彼の骨には全く異常が認められなかった。この出来事は、彼の手はヒーリングハンドであるということを意味するわけである。

また、その後あまりにも生活が苦しいため、一度彼がヒーラーを辞めて運送会社の運転手を始めたときには、ありとあらゆる災難が降りかかってきたそうだ。車は盗難に遭い、お金は盗まれるなど、ヒーラーを辞めた罰としか思えないようなことばかりが続き、復帰したとたんにはそれは治まったという。

以降、彼は30年ほどヒーラーを続けている。

過去には、彼のこの奇跡的な力を利用して金儲けをたくらんだ人たちもたくさんいたようだ。

彼が頼まれてヨーロッパに滞在していたときには、1回100ドルと思っていた治療費が何と（アメリカドルに換算して）500ドルでチャージされていて、その費用のほとんどがプロモーターの懐に入っていたのだ。彼はお金のことにはほとんど口を出さないので、知らずに治療を一生懸命行っていたわけだが、ある日患者が深刻な顔で相談に来たそうだ。

「お金の持ち合わせがないので、費用を交渉できないか。」

と直接彼に持ちかけてきた。彼は親切に、

「では、いくらであればよろしいのか？」

と尋ねたところ、

「何とか300ドルにならないか。」

と言われたという。

驚いた彼は、即座にプロモーターを解雇してさっさとフィリピンに帰ってしまった。

同じような話は日本でもあったそうだ。

いつの世も人間の私利私欲はつきものようであるが、深刻な患者の治療に真摯にあたっているヒーラーに余計な心労を掛け、患者の負担を重くするとは言語道断であると言いたい。

神霊治療についての基本理解

身・心・霊

Yさんの話では、神霊治療の初期段階はクリーニングで、本格的な治療はその後に行われるということだ。そして、クリーニングは3つの段階で行われるものらしい。

1つ目は「身」。肉体レベルの毒素を除去する。

現在、どんなに健康に気を使っている人でも、毒素がたまっていない人はいないと思われる。それは、汚染された空気を吸い、汚染された水を飲み、薬漬けになった食べ物を口にする生活を余儀なくされているからである。

これらの毒素は肉体に溜まり、長期的には寿命を縮める原因になっている。

第2に「心」。ストレスや余裕のない生活といった、心因性の毒素を排除するクリーニングだ。

そして第3に「霊」。生命エネルギーの源である魂のクリーニング。

しかし、この「心」と「霊」のクリーニングは、毒素の原因をつくっているのが自分であるため、その自我に基づいた考え方を変えない限り、いくらクリーニングしても、また心にはストレスがたまり、魂は曇ってしまうことになる。

これについては、詳しく後述するが、あまりこの部分を神霊治療に頼っても意味がないということを認識しておくべきであろう。

神霊治療が普及しないワケ

それにしても、このような超科学的な現象を目の当たりにして、なぜ人々の間にこの治療が浸透しないのだろうか？また、なぜこのような奇跡的な治療が、ひっそりとした個人宅で行われるのだろうか？疑問は後を絶えない。

かつて日本やアメリカのテレビ番組でも、神霊治療は紹介されたことがある。

ヒーラーの行った治療は本物であったが、結果は「手品と同じ類」ということで処理をさ

れてしまった。神霊治療が普及しない理由は、マスコミがこれを「インチキ」呼ばわりしているからに他ならない。

もしこれを「本物」と報道したらどうなるだろうか。

神霊治療が一般的になってしまったら、現在の医者や病院はもとより、大事なスポンサーとなってくれている製薬会社各社にとって極めて不利な状態を招くことは容易に想像できるはずだ。

神霊治療だけでなく、一般大衆がメディアの流す一方的な情報に事実が歪曲されて伝えられることはよくある話なのだ。特にアメリカのメディアはひどい。ユダヤにとって不利になる報道をすることがないのは周知の事実だ。

そして日本でもアメリカでも、病院以外の場所で、医者免許を持っていない者が外科手術をすることは法律で禁じられている。しかし、後から「証拠を見せろ」と言われても、傷跡も残らないのだから処罰されることはまずあり得ないだろう。現に、多くの人を集め、教会を借りてかなり堂々とヒーリングを行っているヒーラーもいるくらいである。

神霊治療のエネルギー源

ところで、なぜ「心霊」治療ではなく、「神霊」と書くかということ、彼の受けるヒーリングのエネルギーは8次元からのものであり、7次元以上は「神界」に属するため、「神」という字が使われるのだと言う。

(「8次元」と数字を付けて呼んでいるが、実際にここからここまでが8次元とはっきりした境界線を引けるようなものではなく、便宜上われわれにわかりやすいようにそう呼んでいるだけの話であるのでご留意されたい。)

現在8次元以上の高次元エネルギーを使って神霊手術を行うことのできるヒーラーは、地球に13人いるらしい。そのうちの多くはフィリピンに住んでいる。おそらく磁場エネルギーが高いせいであろう。

ロサンゼルスでは磁場エネルギーが低いため、本格的な治療を行うことができないそうである。

ちょうど電気に例えるなら、フィリピンの磁場エネルギーが家庭用の交流電気に相当する対し、ロサンゼルスのそれは、自家発電並みのエネルギーしか得られないという。

渡邊延朗氏のフォトンベルトに関する著書によると、約1000年前の地球の平均磁場は、40ガウスあったのに対し、現在の平均磁場はたったの0.4ガウスしかないそうである。地球がフォトンベルトに突入する瞬間を2012年に控え、磁場が減少しているという説

もあるが、それよりむしろ自己中心的な現代人が、人間だけの欲求を満たすために地球を傷めつけ、「今の自分たちさえよければよい」という私利私欲・我欲に満ち溢れた想念が、1000年の間にこれほどまでに地球磁場を減少させる結果となったのではないかという見方の方が納得がいくような気がする。

それはさておき、実はこの神霊治療も光子エネルギーによって施されるらしい。

光子とは、日本語で「光子」のことであるが、粒子として捉えたときには「光子」、波として捉えたときには「電磁波」の性質をもつものである。ちょうど、電子レンジのマイクロ波のようなもので、肉眼には見えないが物質を変化させるエネルギーをもつ。

光子は宇宙空間に満ち満ちており、われわれ人間も光子エネルギーの影響を受けている。光子エネルギーを活用できるようになると、われわれの科学技術は飛躍的に向上することが予想される。現に光子の研究は進んでおり、今のギガヘルツの1000倍—テラヘルツの演算処理速度をもつ光子コンピューターが登場するのも遠い未来のことではないだろう。

光子は、時間を超越した高次元のエネルギーである。

光子エネルギーを身体に受けると、原子レベルでなく遺伝子レベルにまで変化が起こり、今まで近代医学で治らなかった細胞も治癒されることがある。例えば、末期ガンや脳梗塞、心臓疾患などは、その典型といえる。

神霊手術が痛みも感じることなく、傷跡も残らないのは、時間を超越した次元のエネルギーであるためである。つまり、時間を超越した次元では、1時間も1年も1秒も同じであるため、通常であれば治るのに何年もかかる病気も、光子エネルギーを肉体細胞に与えることで短期間に癒えるというわけだ。同じ理由で傷跡も一瞬にして閉じてしまい、痛みを感じる時間もないのだ。

神霊治療の効果

神霊治療は、現在の科学では説明できない超常現象である。

一般の人にいくら説明しても「にわかには信じがたい」と否定されるのは無理もないことである。実際に神霊治療を受けた人でさえ何が起きたか理解できず、信じない人はいくらでもいる。これは、現実起こった事実に対して左脳を使って理論的思考を当てはめようとしても説明がつかないからであろうと思われる。

しかし、これを頭から非科学的と否定するのではなく、今まで蓄積してきた情報では判断できない、つまり情報が不足しているという認識を持たれた方がこれからのご自身の意識

と行動の幅が広がるのではないだろうか。

一般に知識人と称される方々は、どうしても今まで得た知識や理論で判断しようとするので、病気になっても、医者から見離され、末期的症状になって他にすがるものがなくなるまで、神霊治療を受けに来ようとはされない。

例えばガン患者でも、薬物療法や放射線療法を徹底的にやり尽くしてから神霊治療を受けに来られるといったケースが多い。ところがこれらの薬物療法や放射線療法といった近代的治療法は、体内に原子爆弾を落とすようなもので、ガン細胞の侵食を食い止めることはできるが、周りの健康な細胞までが焼き尽くされてしまう荒療治である。身体の臓器を滅茶苦茶にした後で頼まれるヒーラーとしては、大変な限りだ。

こうした現代医療に対して、心霊療法は副作用や痛みを伴わない、極めて安楽といえる治療法と言えよう。現代の医学・科学では説明がつかないし、また行っているヒーラー自身でさえ、実はどうしてこのような超科学的現象が起こるのか、正しく理解していないようだ。しかし、敢えて洞察すると、「時間を超越し、次元を超えて行われる治療」ということらしい。

ご存知のように、原子の組み合わせで構成されるこの物質世界では、「触れている」ように見える状態でも、原子レベルで考えると、原子核（陽子）の周りを電子が光の速度で回っているわけで、原子間にはわれわれが考えているような物理的接触が完全には行われていないことになる。ましてや素粒子レベル、もっと進んで物質を構成する最小単位と考えられているクォークレベルまで掘り下げると、肉体細胞の原子や分子の間を光子と呼ばれる光の粒子が通過したとしても不思議はない。

このように超ミクロの単位で考えると、素手が体内に入っていくという現象は、この3次元の意識を超えているが、高次の現象としては至極当たり前という説明だ。

また、人間本来の肉体は、すべての臓器や細胞が調和の状態にあり、先天的障害がある場合を除いて健康体である。そこに問題が出てきて病気になったとすれば、その病気の元となる原因があったはずだ。それが、普段の不摂生や暴飲暴食によるものか、それとも怒りや嫉妬といったストレスによるものか、理由はさまざまであろうが、その元となった原因に遡って以前の健康な状態に戻すというのが神霊治療の真髄といわれ、時間を超越した治療という所以であるということだ。

また、治療を受けて直ぐに完治する方と、しばらくかかる方、またそのとき治ってもまた再発する方、完治しないという方もおられる。この違いはどこにあるのであろうか。

一つにはその病気の元となった原因に気づき、反省して生活に反映するようになれば回復が早くなるという点。もう一つは、神霊治療に対して疑心がある場合はヒーラーの送る癒しのエネルギーと波長が同調せず、回復に支障があるという点だ。

しかし、これらは一般論で、人によって事情や状況が異なるため、反省して治療を信じた

からといって、必ずしも完治するとは限らないことを了承しておく必要がある。

病気の原因

病気は、もともと調和を妨げる想念を持った心の波動の影響を人体の細胞が受けて、それらの細胞が弱ることから始まる。

発熱、頭痛、咳、下痢、鼻水といった各症状は、身体を治そうとする自然治癒の過程にしか過ぎず、それ自体が病気ではない。

人間の身体には、健康体になろうとする自然治癒力が備わっているのはご存知であろう。医者がいくら優れた薬を投与しようとも、治すのは医者ではない。自分の身体なのである。また、神霊治療が如何に優れたものであろうとも、ヒーラーが治せるのは50%でしかない。残りの50%は自力で治すしかないのだ。

病気の原因の多くは、自分が常に描く想念、持ちつづけている意識の反映である。想念は言葉や行動となって表れ、表れた現象によりまた意識がつくられる。自己中心的な考え、自我意識、私利私欲といった想念ばかりで心を満たすと、体内の細胞の持つ振動数（波動）が低下し、抵抗力が弱くなる。つまり言い換えれば、病原菌や病原細胞と波動が同調してしまうわけだ。そしてその結果、雑菌や細菌に侵されたり、血液成分のバランスを崩して血管を詰まらせたり、ガン細胞を繁殖させたりすることになる。

もちろん、想念や意識だけが病気の原因になるわけでもない。暴飲暴食や食中毒といった極めて直接的・身体的な原因もあるだろう。

神霊治療では、弱った細胞を活性化したり、毒素を排出したりするが、その真髄は、その病気の原因となった想念に働きかけて治癒する点である。

例えて言えば、噴火している火山の表面をいくら冷やしても、噴火は止まないわけで、元のマグマの方を鎮火しないことには、再発する可能性はいくらでもあるというわけだ。

表面的な肉体レベルを超越して、原因となった「病気のもと」に働きかける治療であるため、神霊手術を受けた直後に病院で検査を受けても、「まだ治っていない」と診断されることはよくある。これはちょうど、元のマグマは取り去られているのだが、火山の表面にあるマグマはまだ冷え切らず熱い状態と同じことだ。検査をしたところで、まだマグマは熱いのである。しかし、再び噴火することはないのはお分かりであろう。

自然界は共生・共存をして成り立っている。植物は動物に酸素を供給し、動物は植物に炭酸ガスを供給して循環し、永遠に共に存続することができるのである。

人間の身体を見ても、口は胃が消化しやすいように食物を噛み砕き、胃は腸が吸収しやすいように消化し、腸は血液を通して全身に栄養分を送り、といった具合にそれぞれが他の臓器のために働いて生かされているという自然の摂理を反映した縮図になっていることがわかる。

しかし、自分たちの繁栄のみを考える自己中心的な細胞が一つだけある。それをガン細胞という。ガン細胞は、他の細胞を破壊しながら繁殖し、やがて全体としての人間の肉体が死んで自分たちも滅亡してしまう。

自己中心的な考えをできる限り捨て、調和のある生き方をすることが大事である。他人を思いやり、常に感謝をし、謙虚な態度で他人の価値を認め、他人を自分の分身として親切に接するようになれば、細胞の波動が上がり、病気になりにくくなることがわかりただけだと思う。

心の健康法

病気の原因が、意識的・無意識的に関わらず、不調和の想念を持ち続けて細胞の振動エネルギー（波動）が弱まることにあるとすれば、波動を高くしておけば病気にかかりにくいということになる。それでは、波動を高くするにはどうすればよいのだろうか。

簡単に言えば、自己中心的な考え、「自我」を無くせば波動は高まるのである。

もともと人間の本体である魂は、波動が高いのである。肉体は魂がこの世界（物質世界）でいろいろなことを経験するための道具に過ぎないが、その肉体の存在する物質世界に執着が多いと、重く低い振動数の波動の世界に自分自身を閉じ込めてしまっている状態をつくってしまう。単なる意識を持ったエネルギー体（魂）であったときは波長が短く、軽かったのに対し、自己中心的な考えや我欲、物質世界への執着を持つようになると、それは全体と一体であったエネルギーを遮断することになり、他との間に壁をつくることになるのだ。

「怒り」「恨み」「心配」「恐怖」といった感情の元は「自我」に根ざしており、全て波動を下げるものである。それから、性欲、食欲、睡眠欲といった一次元的欲求の他、金銭欲、物欲、名誉欲などさまざまな欲も自我の表れである。

肉体を持っている以上、ある程度の欲（例えば今日一日を生きるために必要な分）は必要であるが、それ以上の欲は必要以上であり、未来への不安を少しでも減らしたいとする「恐怖」からくるものと言える。すなわち、これも自我に他ならない。

それに対して、「親切」「感謝」「謙虚」などは、自分以外のものに価値を見出そうとする表れであり、大自然の摂理そのもの、つまり「愛」（絶対愛）の心である。これらの気持ちを常に意識に持つようになると、自ずと波動が高まっていくのだ。そして、人間であるから、自我が出てしまったとき、例えば「人にやさしくしなかった」とか「他人の心を傷つけてしまった」と思うようなときには、人間だけに備えられている「反省」という行為を通じて、自我に基づいてしてしまった行為を（心の世界で）消せばよい。

それから、具体的な方法論を言えば、反省をしたり、「親切」「感謝」「謙虚」といった意識を高めるには、「瞑想」を行うことが最良である。心をリラックスさせ、物質世界の出来事に翻弄される左脳を休めた静かな状態で、魂の声を聞くのである。

これが、波動を高め、幸せをつくり、健康体でいられる最短で最善の方法なのだ。

神霊治療に関する質問集

Q: 神霊手術により取り出される物質は何ですか？

A: 取り出されるものはカルシウムデポジットと言われておりますが、正確には体内に蓄積された毒素をヒーラーが取り出しやすいところに集めて、フォトンエネルギーにより物質化されたものです。ですから、そのような物質の塊が体内にあった訳でもなく、臓器の一部が取り出されているわけでもありません。

取り出される物質は、白くて丸い塊であったり、細長い肉片であったりします。首のところからはミューカスといわれる白味噌のようなものがドロツと出てきたり、蓄膿症や鼻炎の方はサイナスから異物が取り出されます。

また、物質化された毒素を取り出す際に血が流れ出ますが、最初受け始めたときはたいたい血の色は黒く濁っていて、匂いが強く、レバーのような塊が出たりします。ところが、治療を何回か受けているうちに、出てくる血はさらさらなきれいな赤色になってきます。

Q: 神霊手術は何回受けても大丈夫ですか？

A: 体内の毒素が物質化されて取り出される時に血が出ますので、1日に受けることのできる回数には限界がありますが、基本的には何回受けても大丈夫です。逆に、受けすぎて悪くなるようなことはありません。ただし、神霊手術後に毒素が出ている間は、好転反応が表れたり、一時的に気分が悪くなる場合があります。

フィリピンでの神霊治療を受けられたい方は、下記のウェブサイトでお申し込みを受け付けております。

<http://www.yoyume.com>